

## 2021 年度 学校関係者評価報告書

学校法人湘中央学園  
浦添看護学校  
学校関係者評価委員会

学校法人湘中央学園浦添看護学校学校関係者評価委員会は「2021 年度自己点検・自己評価報告書」の結果に基づいて保護者、卒業生、業界関係者評価を実施しましたので、下記のとおり報告します。

### 1. 教育理念・目的・育成人材像

○今年度も昨年度同様、新カリキュラムの検討の年であり指標に示された事項については、引き続き見直し検討を行っている。その新カリキュラム検討においては学校の特徴を生かすということを前提にした教育内容の検討ができています。特にディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを明確にすることができ、育成人材像もより具体的になったことで教育実践活動に一貫性ができたことは評価できる。

○新年度早々行われる後援会総会と連動して行っていた保護者との情報交換会は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、オンライン開催となったが、対面で行っていた従来よりも参加者が多かったことは、新型コロナウイルス感染防止の如何を問わず、新たな開催方法として今後に期待したい。

### 2. 学校経営

○2年連続での新型コロナウイルスの影響を受けた学校経営であったが、法人本部が示す毎年度の運営方針に沿った学校独自の事業計画は大過なく終えることができている。そこに至るまでの教職員の努力を評価する。

○具体的な組織活動として立ち上げた新カリキュラム検討に係るワーキングチームや教育現場における ICT 活用の検討を行い、実用化を進めるオンラインチームは精力的に活動している。特に、ICT 活用については、今後の看護教育において推進を図らなければならない要素であると考えことから、今後の活動を期待する。

### 3. 教育活動

○教育目標の設定や教育方法・評価等については、2022 年度からスタートする看護基礎教育三年課程のカリキュラム改正の一貫で学校開設当時の「教育理念」「教育目的・目標」「育てたい人材」等、一連の流れで見直すことができている。今後は、教育実践評価を体系的に行えるよう、組織づくりが必要である。それぞれの分野・領域の関連性を視野に入れた評価基準の作成に取り組まれることを期待する。

○コロナ禍において、対面で行う教育活動に限りがある中、特別講義等正課外で行う教育活動は充足している。特にアクティブラーニング型教育として「協同学習」を試行科目として実践したのは効果的だった。その成果から学校として看護師教育の方向性が具体化でき、教職

員の共有化が図れている。教育実践活動の深化・発展を期待する。

#### 4. 学修成果

○進学や就職についてはキャリアサポートチームによる支援が昨年同様に行われている。進学の多くは県外及び県内にある助産師養成所や県内大学への編入学等である。就職については3月10日現在、111名の就職が内定しており、就職率は94%である。

○資格取得率向上のための国家試験対策は、学内に国家試験対策委員会をおき、1年の時から継続して行っている。3年生については、本来なら対面でグループ学習を徹底するはずが、コロナ禍の中、密閉、密集、密接による感染拡大を懸念し実施できなかったことはやむを得ない判断であったと認識する。コロナ禍という現状の収束は見えてないことから今後は「ウィズコロナ」の視点で取り組む必要がある。

○退学、休学についてはメンタルで休む、あるいは退学する学生が多い。登校する機会の減少や集団での学習活動ができないことが要因になっていることは否めない。学生とのコミュニケーションの取り方やスクールカウンセラーの効果的活用法など課題は多いが、学校組織として頑張っていたきたい。

○卒業後の学生たちの活動実態の把握は十分できていない。同窓会と一体になった取り組みを試みるのも必要と思われる。

#### 5. 学生支援・学生指導

○学生に対する様々な支援は適宜実施している。経済的支援は県の看護師等修学資金貸付制度や学生支援機構等の制度を活用し、健康支援については定期健康診断の実施を行っている。

今年度はコロナウィルス感染防止対策としてワクチン接種の広報活動を行うと同時に市町村単位の接種や県による広域集団接種を活用し、学生に対する積極的接種の呼びかけを行っている。強制接種ではないものの、結果として、学生の8割程度が接種できたことは評価したい。

○保護者との連携はオンラインで行っている。コロナ禍における看護教育の現状を伝えながら、学生の学校生活についての情報提供やコロナウィルス感染状況等に係る「注意喚起」文書等の発信が頻繁である。

○学生の課外活動については、地域に根ざした看護教育を標ぼうする学校としては積極的に進めたいことであるが、コロナ禍の中、可能な範囲での実施は継続してほしい。正課カリキュラムで学ぶことと同様に正課外カリキュラムで学ぶことも大きいと思われる。

#### 6. 教育環境・法令遵守

○今年度はコロナ対策の一環で抗ウィルス抗菌コートの実施や全館 Wi-Fi 設備を完備する等施設整備を重点的に行っている。更に国家試験対策のため、体育館に暖房装置を臨時に設置したのは良かった。又、コロナ禍で臨地実習ができず、学内実習に切り替えた折、電子カルテの導入を図ったことは多様な教育実践に繋がったと評価する。

○防災については、学内に防災対策員を設置し、災害時の学校の対応等を検討している。

「危険は忘れた頃にやってくる」の謂れを忘れずに継続的活動をお願いしたい。

#### 7. 学生受け入れ募集・社会貢献・地域貢献・特別活動等

○学生の受け入れ募集活動は、コロナ禍の中、かなり制限された状況であった。しかし、高等学校への訪問は精力的に行い、本校の教育に関する情報提供は行われている。高校の進路指導の教諭対象のオンラインでの進路説明会は従来通り行っている。

○法令遵守については、毎年の教育実践報告が沖縄県を經由し、厚生労働省に行っている。又、専修学校としての教育実践報告も同様に沖縄県私学総務課を通して文部科学省所管課に行っている。いずれの場合も指摘事項はほとんどない。

○学生の個人情報保護についてもこれまで同様に問題が生じることなく経過している。

○学業に係る学生の自己・他者評価については、看護学領域ごとに教務課に保管・共有されており、必要に応じて家族と共有している。取り扱いは適切であると考えられる。

○社会貢献・地域貢献については、コロナ禍により外部との交流は、かなり制限されたが、可能な範囲で浦添市の自治会と連携し、高齢者の血圧測定や酸素飽和度の測定を行っている。又、敬老の日に合わせて、高齢者へのメッセージを届けたり、コロナワクチン接種会場でのボランティア活動は感染対策をしながら行っている。その成果として学生のボランティア活動（ワクチン接種会場での駐車場係り）は浦添市より感謝状を受けている。このような関わりから学生は地域活動の必要性を実感していると認識した。

○国際交流については、学校が留学生を受け入れていないことから留学生を通しての国際交流は行えていない。ただし、コロナ禍で本国に帰国できていない JICA 沖縄国際センターの研修生とオンラインで情報交換を行った。更に、科目「国際看護」の授業の一環で「JICA 沖縄国際交流フェスティバル」にはオンラインで参加した。そのようなことからほそぼそながらも、看護師養成所としての国際交流はできていると評価した。

○学校行事委員会が中心的に行っている入学式、卒業式は学生と教職員のみで行い、オープンキャンパスや新入生歓迎球技大会は中止となった。ただし、卒業式、入学式の動画配信は保護者から好評で、2～3日は視聴できることから繰り返し見ることができるとの反応があったとのこと。式典等の今後のあり方を検討することも必要であると認識する。

以上